

2021年ヒラメ稚魚分布密度調査結果(太平洋)について

当研究所では太平洋における天然ヒラメの稚魚分布密度調査を1999年から行っており、2021年は8月5日、8月27日、9月14日に桁網(水工研Ⅱ型)を用いて三沢市沖8点で行いました(図1)。ヒラメの分布密度は桁網の漁獲効率を0.28とすると9-243尾/1,000m²の範囲にありました(表1)。採集したヒラメの全長組成は、8月5日に水深5m及び7mで30-39mm、8月27日に水深5mで50-79mm、水深7mで50-69mm、9月14日に水深5mで70-89mm、水深7mで80-99mmが主体でした(図2)。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、2021年は197(表1)で、1999年以降の平均値52を上回り、過去2番目に高い水準でした(図3)。

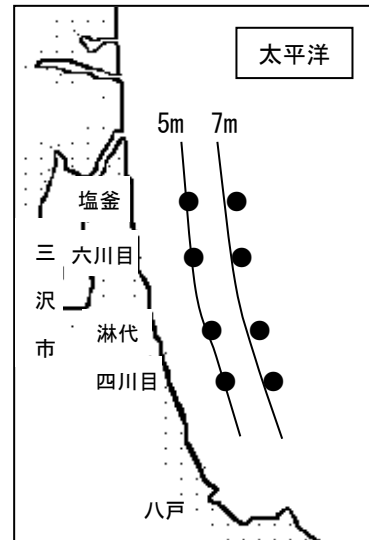


図1 調査地点

表1 ヒラメ稚魚分布密度

調査月日/調査点	水深 5m				水深 7m				(個体/1,000m ²)		底層水温
	四川目	淋代	六川目	塩釜	四川目	淋代	六川目	塩釜	5m 平均	7m 平均	
2021.8.5	145	176	225	146	166	211	243	170	169	197	21.5-22.0
2021.8.27	22	21	26	24	43	45	54	45	23	46	欠測
2021.9.14	9	18	12	19	9	17	18	13	14	14	19.1-20.9

* 桁網の漁獲効率を0.28として算出した。

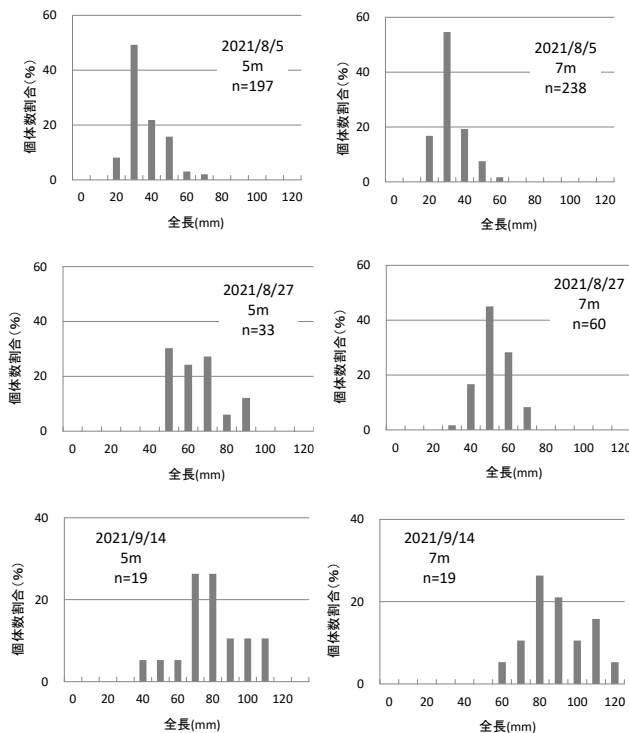


図2 採集したヒラメ稚魚の全長組成

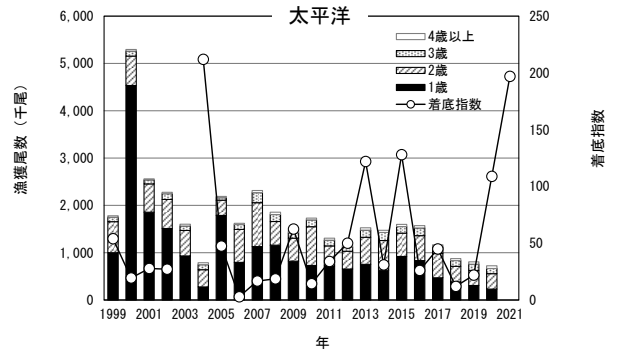


図3 太平洋のヒラメ着底指数と年齢別漁獲尾数の推移